

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和2年度第2回(第35回) 川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働課		
開催日時	令和2年9月29日(火) 午後7時00分から午後8時30分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室 (オンライン会議)		
出席者	委員	岩崎恭典、田中晃代、藤本真里、横谷弘務、加門文男、鈴木光義、乾美由紀、延命寺陽子、田中真、田中真優、中村佳子、名木田絢子、堀田大樹、三善知子、吉尾豊	
	その他		
	事務局	総合政策部長、総合政策部副部長兼参画協働課長、同課長補佐、同課主任2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	オンライン1人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>(1) 川西市参画と協働のまちづくり推進会議 会議公開運用要綱の改正について</p> <p>(2) 令和2年度 各部会からの中間報告について</p> <p style="padding-left: 20px;">①A部会(トラップを仕掛ける会)</p> <p style="padding-left: 20px;">②B部会(ポップコーン部会)</p> <p>(3) 提言書の作成について</p> <p>3 閉 会</p>		

19:00～

## 1 開 会

事務局により進行。

事務局紹介。

オンライン会議について事務局からの説明後、岩崎会長により進行。

## 2 議 事

### (1) 川西市参画と協働のまちづくり推進会議 会議公開運用要綱の改正について

#### ○ 事務局

- ・ 配布資料に基づき説明・確認

質疑応答

#### ○委員

- ・ 傍聴について、WEB会議に参加する委員の関係者が傍らにいる場合は、認められるのか。

#### ○事務局

- ・ この推進会議など、公開の会議では問題ない。ただし、非公開の会議については、周りに誰もいない状態にして頂きたい。
- ・ 川西市参画と協働のまちづくり推進会議 会議公開運用要綱の改正については、承認された。

### (2) 令和2年度各部会からの中間報告について

#### ①A部会（トラップを仕掛ける会）からの報告及び質疑応答

○ A部会長が資料に基づき報告

第2回まちづくり推進会議で鈴木委員の自治会を想定した模擬ワークショップを行った。プロセスよりも模擬ワークショップ、自治会、トラップを仕掛ける会のあり方についての議論が面白く、そちらを中心に報告する。

- ・9月の部会では、実際にタイムを計って模擬ワークショップを実施した。  
求める対象を絞った上でワークショップを行ったから60分が、振り返りは20分では足りないなど、『時間が足りない』と感じた。
- ・自治会の方への質問は、イラストで詳しく説明できるように勉強が必要だと感じた。
- ・部会長が作成された資料の文章に救われた気持ちになった。
- ・「第三者」として関わりながら、自分自身の自治会も「できていない」という振り返りができた。一方で、「できない」から悲観するのではなく、寄り添える立場でもありと気づいた。
- ・話し合いは、顔を合わせてワイワイしてのやりとりがいいという思いがあるので、WEB会議ばかりなのが残念である。
- ・漠然とした自治会の話から防災訓練を想定しての流れになり担い手のイメージが具体的に出てきた。運営側は、若い方の本音を聞く機会が少ないので、トラップカードを使って若い方達に仕掛けていくのは大変意義があると思う。
- ・トラップカードの作成を通して、マンネリ化している行事を見直せるきっかけにもなった。

質疑応答

- ・自治会としては、トラップを仕掛ける会があると助かると思う。  
→今回は、思いがけず自治会を想定した模擬ワークショップを行った。しかし、トラップを仕掛ける会は、どのような活動や場面でも使えると思う。
- ・60分の模擬ワークショップでは、たくさんの課題や気づきがあったと理解している。

欲しい人材を明確にして、運営側の方が具体的に欲しい人材へ、どのように活動や組織をPRするか考える中で組織の課題も自覚できる。

ノウハウを蓄積しているから、相手が自治会であろうがいろんな地域づくりをしている団体であろうが、ノウハウを活かすことができる。その時に、具体的にカードにイラストがあるとわかりやすいという理解でよいか。

- ・若い世代には、具体的なお徳感がPRできたらいいなという意見があった。

その具体的なお徳感の位置づけは？

→模擬ワークショップで出た「お徳感」は、「パパ友」や、「経験」が得られること。

お徳感については、あまり意見がでず、次回に持ち越しとして終わった。

→「お徳感」というのは「金銭的」「物質的」なことではなく、

自分が経験できなかったことに一歩足を踏み込んで体験出来たとか、年齢を超えている方と話しができるチャンスができたという気持ちが「お徳感」であり、必要である。そういう組織にしていかないと、2度目は来なくなると思う。

→若い委員の「運営側の方から『若い方が参加してくれて良かった』と言ってもらいうれしかった」という意見が深く心に残った。

若い世代の印象は、行事に参加してもマンネリな部分を受け取って帰られる。自治会の運営側としては、「若い方が参加してくれたらうれしい」。今までは、この気持ちを伝えられなかったので、これを伝えることでこれも一つの「お徳感」ではないかと思う。

- ・当初の方向性は、カードで人を呼び込むと思っていた。しかし、今回の報告では、カードづくりワークになっているように感じた。方向性が変わったのか。

→方向性は変わっていない。段階的な手順で行っていて今がカードづくりの時。今後は、できたカードで人を集めたり、会館等に掲示したり、配ったりする予定。

## ②B部会（トラップを仕掛ける会）

- B部会長より議論の経緯と出来たカードの実践予定について説明

○ B部会委員が資料に基づき報告

- ・ゲームをしながら、目的やゲームのやり方を説明していく。

配られた資料にあるリソースカード（資源）とカケルカード（条件）を組み合わせてお悩みカードの課題に対する解決策を考える。

<ゲームのルール説明>

①市民活動など、興味のない人達にリソースカード（資源）、カケルカード（条件）

の各種類のカードから 7～10 枚程度選択してもらい、部会側がお悩みカードを 1～2 枚指定する。

②指定されたお悩みカードに対して、事前に選択したリソースカード、掛けるカードを使って解決策を考える。

質疑応答

- ・自分が選んだカードだけで考えるのか。

→解決策を考えるには、多くのカードの中からリソースを絞ったほうが良いと考えるので、あえて選択してもらっている。

→他の人にはどのようなカードを選択したのかはわからないようになっており、今回は選択したものにとらわれず考えてほしい。

- ・自分で選んだカードだと解決方法が浮かばない。

- ・ある意見では、無理に理屈をつけていく感じ。

→発想が浮かばないカードがあると思うので、それにとらわれずに自由に発想して欲しい。

- ・選ぶカードは、種類別に 10 枚か、まとめて 10 枚なのか。

- ・使用するカードは、種類別に一枚ずつか、まとめて良いのか。

→2 種類のカードの中から、何枚使用しても OK。まだ運用ルールは決まっていないの

で、今後検討する。

- ・市民活動などに「興味のない人を引き込む」テーマだったと思うが、このようなカードでプレイするのは、興味ある人たちではないかと感じた。

→当初は、市民活動などに「興味のない人を引き込む」テーマでスタートしたが、楽しい発想を出し合っってこのようなカードが生まれた。

→お悩みカードは市民の声を反映しているので、活動に興味のない人にも受け入れられると考えている。

- ・広報について、どのように広報して市民に知ってもらい、気軽に手を取ってもらえるかが大切だと感じた。

→リソースカードには、私企業や民間団体、NPOなどの名前が入ることが理想である。

→リソースカードの説明書きにお店のPRなどが載っており、そのカードがお店においてあれば、お店に行った人が手に取り遊んでもらうことで、みんなを巻き込んでつながっていくと思う。

- ・具体的な企業やNPOの名前を入れてリソースとして使用することは楽しい話。

### ③A部会・B部会への意見・提案

- ・今年度2月末で委員の任期が終わるが、コロナが終息していない。A・B部会の内容がまとまっているようなのでこのまま深掘りするか、コロナ禍におけるテーマを考えてみるのか、方向性の検討が必要。

## (3) 提言書の作成について

### ○ 事務局が資料に基づき説明

#### 質疑応答

- ・提言する対象は、市か市民か。

→審議会であるので、市への提言である。ただし、トラップカードを活用するのは市民や団体であるのでその方々に期待することや、市が市民にどのように広めたらよいかなども盛り込んでいただいても良い。

○ 岩崎会長

- ・アフターコロナかウィズコロナのどちらの活動になるのか、難しいと思う。
- ・両部会ともアイドリング状態。これからやりたい、どこかでやってみよう、深掘りしていかなければならないことであるし、それができる素材は十分ある。
- ・コロナ禍のアイドリングの期間の受容性があるので、実践して3月に最後まとめる。
- ・今後も、カードを活かして具体的に成長させていく機会は継続して設ける必要がある。
- ・コロナとの共存方法が見えないが、次に何をしないといけないか、アフターコロナ、ウィズコロナの状況を踏まえながら、提言書を書き込んでいかなければならない。
- ・今後川西市にとっていかに両部会の活動が重要かを提言書に込める。

○ 事務局

- ・12月の全体会においては、提言書の「要素」をおさえて頂き、整理が出来た状態で意見交換ができればと思います。

3 閉 会